

講評

第17回公共建築賞 近畿地区審査委員会 委員長

近畿大学建築学部教授

鈴木 毅



公共建築賞・
優秀賞

行政施設部門
(近畿地区)

太子町新庁舎 太子の環^わ

聖徳太子に由来する歴史を持ち、自治意識が強く市町村合併を選ばず独自の町政を貫く兵庫県太子町の新庁舎である。

行政棟、議会棟、地域交流センターが、大きな中庭広場を介して相互につながる形となっており、コンパクトな建物と回遊状の動線を組み合わせた構成で、巡って行くと動線の先にはいつも好ましい風景と場所が生まれていて、ゆとりと豊かさを感じさせる。

ボリューム感を抑えた屋根面と深い軒、巧妙に分節された壁、デッキやコリドーを経た視線の交錯、さらに無機質の壁面と温もりのある木質の内装や外部の芝面などによって、日陰、まぶしさ、透明感など五感に訴えかける居心地の良さと高度なデザイン性が両立している。

議場を眺められ24時間開放されている広場はどこからでもどこへでも自由に通ることができ、禁止ではなく、マナーと良識に期待した運営で美しく維持されてい

る。交流ラウンジはイベント時のみならず、中高生をはじめとする市民が日常的に利用する居場所となっている。他にも、食器付きで複数家族でのパーティにも貸し出せるスペース、障がい者の働く目標となっているカフェ、災害時への準備など見どころは多い。

意欲的、かつ丁寧・周到に計画・デザイン・施工・運営された庁舎であり、理念ある発注者と優れた建築家が組めばこれだけのものができることを示してくれる建築界の希望である。



公共建築賞・
優秀賞

文化施設部門
(近畿地区)

竹中大工道具館新館

我が国が誇る大工文化を伝え、広める日本唯一の大工道具館である。

六甲山から連なる敷地内の植生を最大限残すことにより、山並みと一体となって佇んでいる。各所にみられ

る、新しい技術と卓越した職人技、洗練されたデザインと高度な施工を通して、ものづくりの心が見えてくる極めて完成度の高い建築である。

運営についても、積極的な企画展示やイベントが開催

されており、海外からを含む多数の来館者が、伝統と現代を体感できる建築空間の中、貴重な道具のコレクションと展示を見て、聴いて、手で触れ、匂いを嗅いで、五感で味わい鑑賞できる大工文化の発信基地として存在感を持つ。



公共建築賞・
優秀賞

生活施設部門
(近畿地区)

立命館大学大阪いばらきキャンパス

まちに未来をもたらす「まぜるキャンパス」をコンセプトに、学生同士、学生と市民の接点を最大限に目指した新時代の大学キャンパスである。茨木市、立命館大学、UR都市機構の官民が一体となり、ビール工場跡地に、防災公園、市民開放施設、大学を整備している。

特筆すべきは、境界が見えないキャンパスと公園の関係、都市軸と動線が十分に検討された配置計画とそれらが生み出す風景である。公園のみならず、大学内には、レストラン、カフェはもちろん、ギャラリー、図書館、まちライブラリー、ホール（成人式にも利用）、さらには商工会議所まで、さまざまな開放施設が設けられている。

大屋根と屋内外テラスを持つ、公園に面した「コンコース」と呼ばれる明るい主動線空間にはヒューマンスケールのコーナーが展開され、掲示板や家具が学生たちの思い思いの活動をサポートし、新しい教育環境としても魅力的である。

地域施設と一体化されたキャンパスの運用は、地域連携室が担い継続的な運用を行っている。市民参加型の

ガーデニング講座や、失われた里山を再生するボランティアはじめ、大学教職員、学生、市民が一体となった活動、さまざまな共同イベント、地域住民の日常利用と学生活動の魅力的な共存は、真の意味での「地域に開かれたキャンパス」として今後の大学の在り方を示す新たなモデルとして大きな意味を持っており、そのチャレンジと成果は高く評価される。



公共建築賞・
優秀賞

文化施設部門
(近畿地区)

ロームシアター京都

戦後モダニズムの傑作である京都会館を保存・継承し、現代にふさわしい新たな機能・価値を加えたりノベーションである。

市民になじんだ景観を尊重しつつ、課題の多かった第一ホールを解体し、バレエやオペラなどの総合芸術が可能で、トッププロから市民までが利用できるメインホールを実現している。同時にバルコニー部分を屋内化し、ホールをサポートする内部空間を確保するとともに、ロビーを介して南北に通り返けが可能な動線を整備して施設を街に開かれたものになっている。レンガタイルや床模様などの、前川建築のヴォキャブラリーも注意深く整備して施工するなど、公共建築としての機能と施設水準の向上を図りながら、建物の価値保存に繊細かつ入念な対応をしている。

多くの自主事業公演を企画する運営組織と市民ネットワークの事業によって、ホールは高い施設稼働率であり、

目標とされた舞台芸術文化の創造が達成されつつある。

また新たに設置されたブックカフェとレストランは、ホール公演がなくとも訪れることのできる憩いの場となっており、広場・公園や他の公共施設との一体的な管理と併せて、岡崎地区の新たな魅力の創造に貢献している。



地域特別賞

近畿地区

TSURUMI こどもホス피스

難病の子どもと家族に「当たり前の日常」を提供するという、これまでの公的サービスではカバーできない福祉の場を実現した日本初となるこどもホス피스である。

多様な性格を持たせた6つの家と道によって構成される村のような場が創設され、複雑で優美な木造架構を始めとする素材やディテール、サインも含めて、子どもたちの創造や興奮を掻き立てる温かみのある空間になっている。

こうした環境の中で子どもたちは、それぞれに向けてスタッフが検討・プランニングした、他では不可能な特別な時間（家族や友人との宿泊等）を家族と共に体験することができる。

また屋外の「遊び創造広場」は地域に開放され、ボランティアやさまざまな支援を受け入れ、多くの人が関わ

るきっかけと交流の場が生まれている。



地域特別賞

近畿地区

京都鉄道博物館

伝統を重んじながらも常に革新を続ける京都の地に、日本の近代を支えた鉄道の歴史・技術・文化・記憶を、リアルな建物や列車に触れながら体験・共有できる場を整備した、意義深いプロジェクトである。

旧交通博物館の機能移転となる新館建設だけでなく、現敷地に残る重要文化財である梅小路機関車庫や旧二条駅舎、さらに営業線とつながった引き込み線などの既存施設を生かして一体的活用を図り、「見る、触る、体験する」といった複合的な展示など、ここにしかない特別な体験を提供する施設となっている。

扇形車庫については文化庁と協議し、文化財としてのオリジナルを損なわず、可逆性のある耐震補強を工夫している。また周辺環境に対しては、スカイデッキがまちへの新たな視点場を提供するとともに、JR新駅を含め

た梅小路公園全体のにぎわいの創出に貢献しており、積極的な展示企画と併せ、京都にこれまでにない場所を生み出している。



(受賞作品掲載は地区推薦順)